

『英語上級者への道 ～英検 1 級合格を目指して』

第 9 回 徹底通訳訓練

日本語訳

■ Dialogue for Introduction

E: 何を聞いているんだい？ 英語の授業を録音したものだね…。

T: そうだよ。教師は誰だと思う？

E: 若い先生だね。多分 20 代だ…。

T: そうです！ 楽しい時間が ♪ ずいぶん前のことだけれど ♪ まだ私をにっこりさせてくれる ♪

E: 君が教えているのかい？

T: 私は、20 代、大学 4 年生。教育実習をしなければならなかったのです…。

E: 生徒たちの声が、とてもよく聞こえる。すごく自信があるように思えるね。とっても一生懸命練習しているね。生徒たちに、実際に言葉を作り出す機会をたくさん与えている授業のようだね。

T: そうです。日本に住んでいて、英語を学ぶということは、母国語としてその言語（英語）を話す親しい友達がいらない状態で学ぶことを意味している。また、学生たちは、教室を一步出ると、その学習対象となっている言語（英語）を使う機会がほとんどないんだよ。

E: そうだね。この環境は英語学習者にとって理想的なものではないし、こんな環境の中で英語を教えることは一層難しいものになっている。まとめると、繰り返したり、通訳したり、音読したりする、こんな練習が、学生たちに私たちがやりなさいと言ったり、あるいは強制したりする多くの練習の中に含まれているということなんだ。

T: そうだね。日本に住みながら、英語の技能をうまく伸ばして、準 1 級に合格した人たち、もちろん 1 級に合格した人たちも含めて、そういった人たちは少数派です。そんな人たちは、学ぶ方法を確かに知っているはずだね。

E: それで、今月は、もっとも効果的に英語力の伸ばす方法に的を絞っていくんだね。

T: その通りです！ さあ、お仕事だ。始めましょうか！

■ Read the Japanese and interpret it into English

まず、次の日本語の内容を 40 秒で英語で伝えてみましょう。実際に口に出して言ってみて下さい。

「ここ 30 年で、初めて、日本の貿易収支が輸入超過となった。1 月 25 日に財務省が発表した数値によると、2011 年の貿易赤字は、約 2 兆 5,000 億円であることがわかった。」

(月間茅ヶ崎英語教本 No.181 を参考、引用)

用意はいいですか。始め！

時間です。

■Listen to Model 1

モデル1を聞いてください。貿易赤字、財務省については、その英語表現を知らない、という仮定のもとに、モデルを示してみます。

Model 1

過去30年、日本の貿易収支は黒字だった。しかしながら、この30年で初めて赤字であることが分かった。1月25日、諸外国との交易を見張っている省の一つが、いくつかのn数字を公開した。それらの数字は、2011年の日本の貿易収支が赤字であったことを示している。輸入の総額が、輸出の総額を2兆5千億円もたくさんあった。

■Let's review Model 1

Model1を振り返ってみましょう。

T: エドワード、どうでしたか。

E: そうだね。正直に言うと、すこし冗長に聞こえる。でも、君の言わんとするところはとても明確に理解できる。言おうとしていることは、次のようなことだね。君は、「財務や通商の政府行政機関」と言わずに、「日本の通商を見張る、政府行政機関の一つ」と言いました。正式な名称を、使うのが最善なのですが、私たちの殆どが政府組織やその他の組織の正式名称を覚えていません。

たとえば、略語で、ユニセフというのは、意味はわかっているのですが、私たちの多くが正式な名前を思い出すことはできないと思います。ユニセフは「国連国際児童緊急基金」といい、最近ユニセフという略語となったのです。私たちの多くは、簡単に、子供たちを助ける国連の機関の一つ、と言っています。

君は、貿易赤字についても、同じ方略を使って「日本の貿易収支は、赤字だった」と言っています。もちろん「trade deficit (貿易赤字)」という言葉を使うこともできたでしょう。専門的な話題に必要な難しい語彙を知らないという場合に、これはとても役に立つ方法です。言語学に通じた私たちに言わせれば、これらは、婉曲表現と呼ばれているものです。

T: ありがとう。

■お伝えしたかったポイント

これ、英語で、どういうの？ 知らないよ、どうしよう、と思った時、あきらめてはいけません。財務省は、正式には、The Ministry of Finance Japan ですが、The Finance Ministry, The Ministry of Finance, The Ministry of Financial Affairs...などと言ってしまう場合も多いかと思います。正式な翻訳文書なら、気をつけるべきですが、日常の場面で、正式な名称しか使ってはいけなかったら、いろいろな話は、スムーズに運ばなくなると思います。英検のスピーチや、作文の場合も、減点になるかもしれませんが、何も言えない、書けないよりはずっと良いはずですよ。いざとなったら、しっかり内容を伝えることが大切です。

貿易赤字についても、ずばり、その英語表現 trade deficit を知らない、ということで、言えない、とあきらめてはいけません。なんとか手持ちの表現を使って、意味を伝えようと頑張りましょう。

ここ 30 年で、初めて、日本の貿易収支が輸入超過となった。という部分は、**exceed** を使ってすっきり言えば、**Japan's imports exceeded its exports for the first time in the past 30 years.** と言えるのですが、**超過=exceed** を知らない、どうしよう！と諦めてしまっはいけません。**trade balance** という語句なら知っている。ということで、ずっと黒字だったが、始めて赤字になった、と日本文の意味をしっかりと伝えていますね。

■Let's try again

ではもう一度トライしましょう。制限時間は 40 秒です。

「ここ 30 年で、初めて、日本の貿易収支が輸入超過となった。1 月 25 日に財務省が発表した数値によると、2011 年の貿易赤字は、約 2 兆 5,000 億円であることがわかった。」

用意はいいですか。始め！

時間です。

E: みなさん、どうでしたか。最初にやった時よりも、よりスムーズに英語で言うことができたと思います。

T: みなさん、きっと、「**trade deficit**(貿易赤字)」や、「**exceed**(超過する)」という表現が使われたと思います。

E: もう一つ、テツ、**Finance Ministry**(財務省)。

T: そうですね。エドワード、模範を示してくれますか。

E: いいですよ。

■Model 2 by Edward

エドワードによる Model を聞いてみましょう。

E: 日本の輸入が、ここ 30 年で初めて輸出を上回った。日本の財務省によって発表された数字は、2011 年の貿易赤字が約 2 兆 5 千億円であったことを示している。

T: すごい。すばらしい。本当のニュース放送みたいです。

E: そうかな。転職しようかなあ。

■Review

ここまでを少し振り返ってみましょう。

T: まず、日本語を見て、英語に通訳してみる。

E: この練習で大切なのは、あきらめないこと。婉曲表現を使うのです。適切な単語が思い浮かばなければ、自分の言いたいことを表すために表現を組み立てるのです。ハンガリー出身の友人がいました。彼女は「snow(雪)」という単語を思い出せなかったので、こう言ったのです。「小さな白いものが、空から降っている」と。私は完璧に理解しました。これは効果的な婉曲表現でした。

T: それから、そのあとで、英文を見て、学習しましょう。そうすると、新しい語彙を習得できます。

E&T: 一石二鳥です。

E: 第一に、自分が知っている語彙表現をうまく使わないと自分の意図していることや伝えたい内容を相手に伝えることに失敗するかもしれない、そんな内容を伝えるために、自分が知っている語彙表現を上手に使うという方略。

T: 第二番目に、あとで模範英文を勉強すると、新しい語彙を習得することができる。

この練習には、二つのメリットがあります。ずばりその英語表現を知らない場合、手持ちの表現でなんとか伝える技が磨ける、さらに、少し苦勞をして英語に訳したあと、英文テキストを学習すると、あたらしい語彙表現を効果的に覚えることができる、という二つですね。the Finance Ministry, trade deficit, exceed は、もう馴染みのある語彙表現になりましたね。

■Further Practice

英語でどうなのか、ずばりその表現を知らない場合、なんとか手持ち表現で言い換えてしまう練習を少ししておきましょう。

次の3つの名詞については、みなさん、通常使われる英語の表記をご存知かもしれませんが、あえて、知らないとしましょう。どう言えばそれぞれの意味を伝えることができるでしょうか。説明するつもりで、実際に口に出して言ってみましょう。制限時間はそれぞれ10秒です。

- 1) 自民党
- 2) 五重塔
- 3) 義務教育

私たちの会話を聞いてください。この種の練習に対する模範例が含まれています。

E: 「自民党」をどんなふうに言いますか。

T: 最大の野党であり、その名称は自由と民主主義を表している。

E: 上手です。略すと、LDP と呼ばれています。この略称は、Liberal(自由)、Democratic(民主的な)、Party(政党)を略したものです。この練習は、的確な単語を知らない時に、みなさんを助けてくれる技能を発達させてくれます。意思疎通が上手な人は、自分が欲しいと思っている単語を、その意味を説明することで、よく相手から引き出させるのです。

T: その通り。おーい、エドワード。あそこ。あれが有名な「五重塔」、5階建ての塔だよ。大きなお寺の建物のすぐ隣に立っているよ。

E: 美しい。そうです、あれは、five-story pagoda(五重塔)じゃないですか。

T: ありがとう。five-story pagoda(五重塔)、それが、思い出そうとしていた言葉だよ。ところで Edward、よく言われるのですが、子供たちのための教育、つまりその、中学校や小学校での授業、これは成功していると言われている。君はどう思いますか。

E: 日本の義務教育のことを言っているのですか。

T: ああ、そうです。日本の義務教育について、君はどう思いますか。

E: 私の息子は小学校へ通っています。いい意味で息子が社会性を身に着けるのを手助けしてくれていると思うし、息子は多くの知識を獲得している。これまでのところ、彼の教育には、正直、とても喜んでいるよ。ただね、テツ。君はうまく「compulsory education(義務教育)」という言葉を私から引き出した。

T: やりましたね。

みなさん、いかがでしたか。手持ちの表現でなんとか説明していく要領とともに、自民党、the Liberal Democratic Party, 五重塔、a five-story pagoda, 義務教育、compulsory education という語彙表現を学習することができましたね。ダイアログのように、説明しているうちに、ズバリ通常使われる英語表現を、相手が教えてくれるということも期待できますね。

■Final Practice

次の日本語を英語に通訳してみましょう。時間は30秒です。

「これまでの日本のエネルギー政策はあまりに原子力に頼りすぎていた。自然エネルギーへと比重を移していった方がよい。」

用意はいいですか。始め！

時間です。私たちの会話を聞いてください。

T: 政府には、その政策がいろいろあります。多くの分野、たとえば、経済、防衛、教育など、それぞれに政策があります。そのうちの一つである、エネルギーの分野で、政府の政策はこれまで原子力に頼りすぎていた。私は、自然からのエネルギーを人々がもっと使うことを、政府は勧めるべきだ、と思います。

E: 飛び切り素晴らしいものには聞こえないが、でも、もともとの日本語が意味していたに違いないこと、その内容はわかる。君が言いたいのは、日本政府のエネルギー政策は、原子力エネルギーへの過大な依存をつづけてきた。政府はその姿勢を変えて、人々が原子力エネルギーから代替エネルギーへと切り替えることを勧めるべきだ、と言うことですね。

T: まさしくその通りです。日本政府のエネルギー政策は、原子力エネルギーへの過大な依存をつづけてきた。政府はその姿勢を変えて、人々が原子力エネルギーから代替エネルギー、たとえば風力や

地熱エネルギー、へと切り替えることを勧めるべきです。

E: うまく模範文を私から引き出しましたね。利口な悪魔め。良い意味で、君は、上手なパクリやだ。

T: 本当だ。僕はよく模範文を君から盗む。

E: 私は、君に一切料金を課さない。

T: 君の言語的寛大さに感謝。

E: どういたしまして。

みなさん、いかがでしたか。エネルギー政策、**energy policy** という言い方がわからないということで、「日本政府は、いろいろな分野で政策をもっているが、そのなかの、エネルギー分野でも政策をもっていて、その政策は原子力に頼りすぎるものだった。政府は、その方針を変えて、みんなが原子力から自然エネルギーへ移行するように勧めるべきだ」と、かなりくどい言い方で、切り抜けました。たどたどしく語りながら、相手から、うまくモデルを引き出して自分のものにしてしまいました。もう何十年も前の学生時代、なかなか会う機会のないイギリス人の先生を捕まえては、いろいろな議論をたどたどしい英語でふっかけては、出てくる表現を盗んだものでした。みなさんも恐れず、どんどん新聞で読んだこと、ニュースで聞いたことを英語で語ってみましょう。相手が **Native Speaker** であれば、きつとこのダイアログのように、うまくモデルを引き出して、さらに学ぶことができると思います。

■Closing Dialogue

T: みなさん、今月のレッスンはいかがでしたか。

E: まず、日本語を通訳してから、次に英語を勉強する。

T: 英語を話す機会があまりないと嘆いてはいけません。

E: そうです。通訳練習を通じて、話す力を磨くことができます。

T: その通りです。私はよく日本語の新聞を英語に通訳したものでした。自分の通訳をカセットテープレコーダーに録音して、同じ内容についての英文記事と比較したものでした。そうすることで、過去に獲得した語彙表現をいかに使うかを学び、また、新しい語彙を学んだのです。

E: 今は、たくさんの記事、音声、映像が、日本語英語の両方でインターネットで入手できます。それらを利用してはいかがですか。

T: 英文テキストを学習する前に、

E: 日本語訳を見て、通訳。

T: これは英語を練習するとても効果的な方法です。まさに「一つの石を投げる、そして、その石が奇跡的に2羽の鳥に命中し、自分のものになる。」

E: 君は、「一石二鳥だ」と言いたいのですね。

T: 答えをありがとう、エドワード。

E: テツ、ただだよ。私という生き字引を、無料で使いましたね。

T: その通り。みなさん、また次回、お会いしましょう。

E: 次回はこのシリーズの最後になります。

T: 逃さないように。

E&T またお会いしましょう！